

15	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104019	DNA メチル化による不活性化遺伝子群の解析 (ヒト癌細胞ゲノムでの研究)	吉川 浩英 ((財)癌研究会・癌研究所エピジェネシス発がん研究部・部長)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、発癌に関わるとされる DNA メチル化について、RLGS によって同定された 60 個の DNA 断片をクローニングし、ヒト肝癌発症における DNA メチル化による遺伝子不活性化の意義を網羅的、系統的に解析することを目標とした。DNMT3 と結合する蛋白質 MIZP が DNA メチル化の阻害因子であることの発見など、いくつかの重要な知見を得ているが、クローニングされた DNA についての解析が浅く、果たしてそれらが発癌の原因なのか結果なのかも定かではない。発表された論文の質は高いが数が少なく、研究体制にやや問題があったのではないかとと思われる。</p> <p>いずれにせよ、得られた結果を速やかに論文として報告することが望まれる。</p>				
16	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104010	NK-T 細胞の分化と免疫系制御で働く分子の同定	小野江 和則 (北海道大学・遺伝子病制御研究所・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者らは NK-T 細胞を初めて同定し、本研究では、NK-T 細胞に発現する MHC 様分子の役割、分化機構、樹状細胞との相互作用、種々の免疫異常疾患との関わりを明らかにして、その治療法の開発を目指したが、残念ながら基礎的課題については目覚ましい進歩は見られなかった。</p> <p>一方で種々の疾患との関連に関する報告は多く、特に動脈硬化症や肝炎との関連を指摘した研究はインパクトがある。しかしその後の進展が見られない。報告数は充分多いのだが、より深いメカニズムを明らかにした質の高い論文が少ないのは、研究方針や研究戦略に問題があったのではないかとと思われる。</p>				